故事成語一覧（30こ・由来つき）

中国の古い話から生まれたことばと、その由来。

矛盾（むじゅん）

つじつまが合わないこと。

由来：楚の国の商人が「どんな盾も突き通す矛」と「どんな矛も防ぐ盾」をいっしょに売り、「その矛でその盾を突いたらどうなるのか」と聞かれて答えられなかった話（『韓非子』）。

蛇足（だそく）

よけいなつけたし。

由来：蛇の絵を早くかく競争で、先にかき終えた人が、足までかきたしてしまい負けた話（『戦国策』）。

漁夫の利（ぎょふのり）

二人が争っているすきに、ほかの人が苦労せずに得をすること。

由来：しぎとはまぐりが争っているところへ漁師が来て、両方ともつかまえた話（『戦国策』）。

五十歩百歩（ごじっぽひゃっぽ）

少しのちがいはあっても、本質はほとんど同じであること。

由来：戦いで五十歩逃げた兵士が、百歩逃げた兵士を笑ったという、孟子のたとえ話（『孟子』）。

推敲（すいこう）

文章や詩を、何度も練り直すこと。

由来：唐の詩人賈島が、詩の「僧は推す月下の門」の「推す」を「敲く」にするか、なやみ続けた話。

杞憂（きゆう）

よけいな心配。とりこし苦労。

由来：杞の国の人が、天が落ちてきたり地がくずれたりしないかと、心配し続けた話（『列子』）。

背水の陣（はいすいのじん）

失敗したらあとがないという覚悟で、物事にあたること。

由来：漢の韓信が、わざと川を背にして陣をしき、兵士を必死に戦わせて勝った話（『史記』）。

四面楚歌（しめんそか）

まわりが敵ばかりで、味方がいないこと。

由来：楚の項羽が漢の軍に囲まれたとき、四方から楚の国の歌が聞こえ、楚の人々も敵に降ったと思って嘆いた話（『史記』）。

塞翁が馬（さいおうがうま）

人生の幸・不幸は、予測できないこと。

由来：国境のとりでの近くに住む老人の馬をめぐって、幸運と不運がかわるがわるやってきた話（『淮南子』）。

守株（しゅしゅ）

古いやり方にこだわって、進歩がないこと。

由来：切り株にぶつかって死んだうさぎを手に入れた農夫が、仕事をやめて、またうさぎが来るのを待ち続けた話（『韓非子』）。

呉越同舟（ごえつどうしゅう）

仲の悪い者どうしが、同じ場所にいること。また、力を合わせること。

由来：敵どうしの呉の国と越の国の人でも、同じ舟に乗って嵐にあえば、助け合うという話（『孫子』）。

故事成語一覧（30こ・由来つき）（2）

中国の古い話から生まれたことばと、その由来。

臥薪嘗胆（がしんしょうたん）
目的を果たすために、長い間苦労にたえること。
由来：呉王夫差は薪の上に寝て、越王勾践は苦い胆をなめて、それぞれくやしさを忘れないようにした話。

蛍雪の功（けいせつのこう）
苦労して勉強した成果。
由来：家が貧しくて灯りの油が買えず、一人は蛍の光で、一人は雪の明かりで本を読んで学んだ話。

登竜門（とうりゅうもん）
出世や成功のための、むずかしい関門。
由来：黄河の急流「竜門」を登りきった鯉は、竜になるという言い伝え（『後漢書』）。

他山の石（たざんのいし）
他人のよくない言動も、自分をみがく助けになること。
由来：よその山から出た粗末な石も、自分の玉をみがくのに役立つという『詩経』の言葉。

温故知新（おんこちしん）
昔のことを学び直して、新しい知識や考えを得ること。
由来：孔子の言葉「故きを温ねて新しきを知る」（『論語』）。

朝三暮四（ちょうさんぼし）
目先のちがいにとらわれて、結果が同じことに気づかないこと。
由来：猿にとちの実を「朝三つ、夕方四つ」と言うと怒り、「朝四つ、夕方三つ」と言うと喜んだ話（『列子』）。

画竜点睛（がりょうてんせい）
最後に加える、大切な仕上げ。「画竜点睛を欠く」の形で使うことが多い。
由来：名人が竜の絵に瞳をかき入れたところ、竜が天に昇っていったという話。

完璧（かんぺき）
欠点がまったくないこと。
由来：趙の藺相如が、宝の玉「璧」を傷一つつけずに持ち帰った話（『史記』）。

助長（じょちょう）
ある傾向を、いっそう強めること。もとは、よけいな手助けで、かえって害をあたえること。
由来：苗の成長を早めようと引っぱって、かえって枯らしてしまった人の話（『孟子』）。

圧巻（あっかん）
全体の中で、いちばんすぐれた部分。
由来：昔の中国の役人の試験で、いちばんすぐれた答案を、ほかの答案の上に置いたことから。

虎穴に入らずんば虎子を得ず（こけつにいらずんばこじをえず）
危険をおかさなければ、大きな成功は得られない。
由来：漢の班超が、敵の陣に乗りこむ前に部下に言った言葉（『後漢書』）。

故事成語一覧（30こ・由来つき）（3）

中国の古い話から生まれたことばと、その由来。

青は藍より出でて藍より青し（あおはあいよりいでてあいよりあおし）

弟子が、先生よりもすぐれること。

由来：青い染料は藍という草からとるが、もとの藍よりも青いという『荀子』の言葉。「出藍の誉れ」とも言う。

隗より始めよ（かいよりはじめよ）

大きなことをするには、まず身近なことから始めよ。言い出した人から始めよ。

由来：郭隗が燕の王に、すぐれた人を集めたいなら、まず自分を大切にあつかうように説いた話（『戦国策』）。

鶏口となるも牛後となるなかれ（けいこうとなるもぎゅうごとなるなかれ）

大きな集団の後ろにつくより、小さな集団のかしらになるほうがよい。

由来：蘇秦が、国々の王に大国に従わないよう説いた言葉（『史記』）。

逆鱗に触れる（げきりんにふれる）

目上の人を、ひどくおこらせること。

由来：竜ののどの下に一枚だけ逆さに生えたうろこがあり、そこにふれると竜がおこるという話（『韓非子』）。

白眉（はくび）

多くの中で、いちばんすぐれているもの。

由来：馬氏の五人兄弟のうち、眉に白い毛があった馬良がいちばん優秀だったという話（『三国志』）。

断腸の思い（だんちょうのおもい）

はらわたがちぎれるほど、とてもつらく悲しい気持ち。

由来：子猿を連れ去られた母猿が悲しみのあまり死に、その腸がずたずたにちぎれていたという話（『世説新語』）。

邯鄲の夢（かんたんのゆめ）

人の一生の栄華は、はかないものであること。

由来：邯鄲の町で、青年がふしぎな枕を借りて眠り、出世する一生を夢に見たが、目覚めると、まだ粥も炊けないほどの短い時間だった話。

羊頭狗肉（ようとうくにく）

見かけはりっぱだが、中身がともなわないこと。

由来：店の前に羊の頭をかかげておきながら、実際には犬の肉を売っていたことから。